

11 Jomon Times

vol. 141

広報 縄文村だより vol.141(11月号)

平成29年11月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



夏の一大イベント!

縄文教室

野焼き&縄文料理
同時開催

縄文村長寿イベント「縄文教室」。ひと夏をかけ「土器作り」「野焼き」「縄文料理」を楽しみます。今年は悪天候続きで延期を余儀なくされ、土器の野焼きと縄文料理を同時開催することとなりました。



みんなで薪を運んで土器を焼きます。火がついたらお父さんたちとスタッフに任せてクッキング開始!

ええ〜!石なのに切れてるっ!!



石がナイフに?
縄文の道具にびっくり!

イベント恒例の「魚の解体ショー」!本場に石で魚が切れるのか疑っている参加者さん達。しかし石器の切れ味を侮るなかれ。先生が鮭に石器を入れると:スパッ!思った以上の切れ味に、子ども達もこの表情!
例年、縄文クッキー作り的人气が集中しますが、今年は石器を使ってみたい子が続出!肉や魚を上手に切っていました。

縄文人の食卓を再現してみよう。



カモ肉を一口大に。結構大変!



旬の食材をぐつぐつ煮込んで。

料理作りは順調に進み、土器で煮込んだ「縄文そば粥」「鮭の潮汁」「シシ鍋」、「ホオ葉の包み焼き」、「縄文クッキー」が出来上がりました。
「思っていたよりずっと美味しい!」「みんなで作って楽しかった」と縄文の味に満足げ。一方、海岸で焼いていた土器もこんがり焼き上がり完成!今年の縄文教室も、無事フィナーレを迎えました。

コラム 意外にもバラエティ豊か!縄文人の食卓。

貝塚からわかる食生活。

クリにクルミ、トチ、鮭、鹿・カモ・イノシシの肉。これら縄文料理に使用した食材の数々は、貝塚を発掘し回収された食べかすを元に、里浜縄文人たちの食生活を再現したものです。

貝塚の断面を見ると、貝殻や魚の骨が目立ち「魚介類を主に食べていたのでは?」と思われがちですが、意外にも主食はトチやクリ、クルミなどの堅果類。縄文人の食糧資源のじつに 60~70%が、植物質の食料だったようです。

ホネは語る…

本来、日本の土壌では堅果類などの植物質のものは腐ってしまい残りません。そこで利用されるのが、人骨

を科学的に分析し生前に食べていた食材の割合を出す方法です。その測定法によると、一般的な縄文人は魚介類が20~30%で、鳥・獣類が10%ほど。たくさんの木の実を摂取していたことがわかります。これは本州の海辺に暮らしていた縄文人にほぼ共通してみられる傾向ですが、里浜縄文人たちは、他の地域の縄文人に比べると魚介類の比率が高かったようです。里浜縄文人は豊富な食料資源に恵まれ、バランスの良い食料事情だったようです。

う、うらやましい!里浜縄文人の食卓。

里浜貝塚からは3mを超えるマグロの骨、アワビやウニ、カニ、さらにはフグの骨も出土しています。現代人からすると、かなり贅沢な食材ばかりですね!

11/3「文化の日」は縄文村へ! 入館無料&東北文化の日コラボ企画開催!

文化の日は入館無料になるのをご存知でしたか?この機会にぜひ足を運んでみてくださいね!この日は「東北文化の日」の企画も開催します!予約不要、時間に合わせてご来館ください。

*ギャラリートーク

「縄文人に学ぶ防災」 13:30~13:50

*宮戸に伝わる重要無形文化財

「えんずのわり」ドキュメンタリー上映

10:30、11:30、14:00

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第7回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1233



かみよし ゆうご
神吉 雄吾さん(49)

復興支援活動

子どもたちのために継続できる支援を

神吉さんは、児童養護施設で暮らす子どもたちの健全育成を目指すとともに、職業能力の開発や雇用機会の拡充を支援するNPO法人「児童養護施設支援の会」(本部・埼玉県春日部市)の代表です。東日本大震災では市外の団体として最初に被災者支援を始め、その後も宮城支部を立ち上げて活動を継続しています。現在は、「森の学校」プロジェクトで活用されている復興の森の管理を行っているほか、宮野森小学校での自然学習などにも携わっています。

神吉さんは以前、関東地方で生活していました。震災直後、気仙沼市に支援物資を運んだその足で東松島市に入り、避難所ですとボランティア活動に従事しました。「それが長く続いて、徐々に活動の内容も広がっていききました。地域のために協力隊に参加したいと思うようになりました」とこれまでの経緯を振り返ります。

宮城支部は旧牛網保育所を拠点としており、施設内にはだれでも自由に使える公園を整備。放課後の時間帯には子どもたちの元気な声が響きます。このほか大学生ボランティアの受け入れや、小型重機やチェーンソーの資格講習会を開くなど人材育成に力を入れるとともに、「木が倒れた」などの地域の小さなトラブルにも対応しています。

神吉さんは「子どもたちや困っている人たちを支援するために、地域が復興した後も継続して活動できる形にしていきたいです」と思いをにじませていました。